淀川水系における水需給バランスの点検　－渇水リスクの分析・評価－

別紙1

○水の用途別の需要の見通し

（現況(2018年度)と想定年度(2030年度)を比較、表1参照）

- 水道用水：高位がやや増加（0.6%/年）
  低位がやや減少（−1.1%/年）
- 工業用水：高位が増加（3.7%/年）
  低位がおおむね横ばい（0.1%/年）
- 農業用水：新たな必要量が見込まれる

○供給の目標

- 10箇年第1位相当の渇水：安定的な水の利用を可能にすること
- 危機的な渇水（追加）：生活・経済活動に重大な影響を生じさせない必要最低限の水を確保すること

○水需給バランスの点検結果（表2参照）

- 危機的な渇水時にも、6府県合計として供給可能量が需要量を上回り、概ね安定的に水を確保可能

表1 都市用水の府県別・用途別の需要の見通し

需要想定（国想定値＋地域の個別施策の値）における実績年度（2018年度）から想定年度（2030年度）までの増減の年平均率　単位：%/年

	水道用水						
	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	合計
高位	0.8 やや増加 ↗	0.1 おおむね横ばい →	0.8 やや増加 ↗	1.0 やや増加 ↗	-0.4 おおむね横ばい →	1.0 やや増加 ↗	0.6 やや増加 ↗
低位	-1.7 やや減少 ↘	-1.3 やや減少 ↘	-0.9 やや減少 ↘	-0.8 やや減少 ↘	-1.8 やや減少 ↘	-0.8 やや減少 ↘	-1.1 やや減少 ↘

	工業用水						
	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	合計
高位	-	3.0 増加 ↑	-	4.4 増加 ↑	2.4 増加 ↑	-	3.7 増加 ↑
低位	-	-1.8 やや減少 ↘	-	0.6 やや増加 ↗	-0.4 おおむね横ばい →	-	0.1 おおむね横ばい →

表2 都市用水の水需給バランスの点検結果

渇水リスクの分析・評価　　危機的な渇水時の対策

	10年に1度程度の渇水時（水供給の安全度を確保）指定水系			危機的な渇水時（危機時に必要な水を確保）指定水系＋他水系			危機的な渇水時の対策（危機時に必要な水を確保するための対策※）指定水系＋他水系		
	水道用水	工業用水	*都市用水*（水道用水＋工業用水）	水道用水	工業用水	*都市用水*（水道用水＋工業用水）	水道用水	工業用水	*都市用水*（水道用水＋工業用水）
三重県	領域A	－	*領域A*	領域A	－	*領域A*	領域A	－	*領域A*
滋賀県	領域A	領域A	*領域A*	領域A	領域A	*領域A*	領域A	領域A	*領域A*
京都府	領域A	－	*領域A*	領域A	－	*領域A*	領域A	－	*領域A*
大阪府	領域A	領域A	*領域A*	領域Ba	領域A	*領域A*	領域A	領域A	*領域A*
兵庫県	領域A	領域A	*領域A*	領域Ba	領域A	*領域A*	領域A	領域A	*領域A*
奈良県	領域Ba	－	*領域Ba*	領域A	－	*領域A*	領域A	－	*領域A*
6府県合計	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*	*領域A*

※量的に算定可能な需要側・供給側の対策を考慮した場合

※1（「ゴシック体」表示）
- 各府県のフルプランエリア全域での渇水に対するリスクを確認するために点検したもの。
- 「水道用水」及び「工業用水」の各欄は、各用途別の需要量と供給可能量を比較した結果を示したもの。
- バランス点検に用いた供給可能量は、一定の前提条件の下での算定であり、実際の運用とは異なる点に留意。

※2（「*明朝体斜字*」表示）
- 「*都市用水*」の欄は、水道用水と工業用水を合計した都市用水の状況を概観するために、単純に合計して比較した結果を示したもの。
- 「*6府県合計*」の欄は、本計画で対象としている6府県のフルプランエリア全体の状況を概観するために、単純に合計して比較した結果を示したもの。

【領域の区分】

領域A	供給可能量 ＞ 需要量「高位」
領域Ba 領域Bb 領域Bc	需要量「高位」 ＞ 供給可能量 ＞ 需要量「低位」 （Ba：上位1/3、Bb：中位1/3、Bc：下位1/3）
領域C	需要量「低位」 ＞ 供給可能量